
誰かのために...

1 月生まれだけど「如月」

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誰かのために…

【Nコード】

N2616P

【作者名】

1月生まれだけど「如月」

【あらすじ】

誰かのために死ぬことは決してカッコいいことじゃないんだぜ

俺はそんなに出来た人間ではなかった

学校は中途半端 部活も中途半端 勉強も中途半端だった

そんな俺でも自分の死に様だけは決めておきたかった

それは…誰かのために死ぬこと

それが一番かつこいいと思っていた

それが男のロマンだと思っていた

それが中途半端な俺の最後の逃げ道だと思っていた

でも、そんな夢はある人に打ち砕かれた

自分の最初で最後の夢を

その日俺は体調が悪かった

元々目が悪い俺はいつも少し視界がぼやけていた

そしてその日はいつもより視界がぐらついていた

そんなとき

俺の目の前では一人の子供が歩道を飛び出し、蝶を追いかけていた

そして車道には1台のトラック

ここだ！と俺は思った

不謹慎な話だがこんなチャンスが来るとは思わなかった

迷わず飛び出した俺は子供を車道から歩道まで突き飛ばした

そして俺は最初で最後の走馬灯が脳裏に浮かぶ

学校ではそんなにいい思い出はなかったな 親友はつくらなかった

し部活も中途半端だったから

あ、親父お袋に何も言ってねえや

親父、お袋、親不孝のバカ息子のことをゆるしてくれ

さあ！トラックよ！そのスピードで俺を轢くがいい！

この俺の最初で最後の願いをかなえてくれ！

「そんな願いは受け入れられん」

天から声が聞こえた気がした

その瞬間俺はある一人の男に抱きつかれそのまま歩道まで転がっていった

無事だった

俺も、その男性も、あの少年も

全員無事だった

普通だったらこれで万々歳のはずだ

でも俺はそうは思えなかった

（なんでだよ…生きる意味もない俺を助けるなんて…どうしてだよ）
そんなことを思った

しかし、助けた男は俺を見るや否や

「大丈夫か？しかし、アンタよくあそこに飛び込んだな」ハッハッハ

「いやいや、アンタも俺を助けるために飛び込んだじゃねえか」

「そういやそうだったな。ハッハッハ」

ここでどうしようもない怒りが込み上げてきた

この何も知らないのに俺の横で笑う人間のことに對してどうしようもない怒りという名の感情だ

「アンタ…なんで俺を助けたんだ！！俺はあのまま死ぬつもりだったのに！」

「あ？アンタ死ぬつもりだったのか？」

「そうだよ！俺は死にたかつたんだ！何もかも中途半端だから…い

「つそ誰かを助けて死のうと思つてたんだ!!」

「ざけんな…」

「え？」

「ふざけんなつて言つてんだよ!!死にたかつただあ!？何寝ぼけたこといつてんだ!!いいか!？この世にはな、死にたくななくても死ぬつていう奴らがごまんといんだよ!それをアンタはなんだ!？「中途半端に生きてきたから誰かを助けて死にたい」？なんだよそれ?アンタにだつて大切な人間の一人や二人いるだろうが!？いなくてもいい。だつたらアンタは大切な人を見つけて守るためにちゃんと生きろよ!人間だれでも人生に絶望することだつてある!でもな…それを乗り越えてこそ「人間」になれるんだろうが!アンタは最後の最後まで中途半端な「人間」のまま死ぬつて言うのかよ!!?アンタも男だろうが!だつたら誰かを守つて守つて守り抜いてから死ねよ!それをこんなところで命を粗末に扱うんじゃないよ!!」

「るせえ…」

「あ？」

「るせえつて言つてんだよ!なんだよてめえ!何も知らねえくせに勝手に謳つてんじゃないぞ!!」

「アンタは最上級の馬鹿だな。確かにそうさ。俺は何もしらねえ。でもよ…それ以上にアンタは自分のこと知らねえんじゃないのか?」

「あ？」

「アンタだつて夢の一つや二つあったろ?好きな人の一人や二人いたろ?世界中は広いんだよ。あんたの知らねえ世界がいっぱいある」
「そんなの俺にはしつたこつちやねえよ。世界中何て知らねえバカだよ」

だつたらよ

これからたくさん確かめてみるよ

これが彼の最後の言葉だった。俺を助けてくれた恩人、そして俺に前を向かせてくれた恩人の。

それから恩人の行方はわからない。名前も聞いてなかったからだ。でも…

あの時助けてくれたことだけは一生忘れないと、誓ったのだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2616p/>

誰かのために...

2010年12月2日12時15分発行